

# 真っ赤な絨毯を敷き詰めたような♪♪♪曼珠沙華日本一の群生へ！

日時:2018年9月20日(木) 天候:曇りのち雨 10000歩 約7km

集合:西武池袋線高麗駅 11時

コース:高麗駅→水天の碑→巾着田曼珠沙華公園→高麗駅

参加者:吉越(L) 班長=斉藤 桑原 奥田

平石 熊島 佐藤繁 森川 井内 小島 山川 木村 畠 脇坂 岩元 吉岡 /一般:西松 計17名

♪は～るばる来たぜ高麗駅へ・・・♪ サブちゃんの歌の函館よりも遠いこの場所！羽田から函館は約1時間20分、そして自宅駅から高麗駅間は約2時間10分！飛行機ならとっくに着き、函館名物「イカそうめん」を食べ、湯の川温泉で一風呂浴びた頃(?)にやっと高麗駅に。今日は曼珠沙華がメインなので女性の参加が多く、我々男性陣はまるで蝶になった気分？(蝶に失礼！蛾かも)・・・お目当ての曼珠沙華が咲く「巾着田」は駅から徒歩15分ほど。丁度「曼珠沙華まつり」が開催中で、平日にも拘わらず大勢の人で賑わっていました。なおこの期間は、巾着田曼珠沙華公園と曼珠沙華群生地内への入場は有料となっています。昨年の9月20日には天皇皇后両陛下もここを訪れ、曼珠沙華を楽しまれたそうで、園内には行幸啓記念碑が建てられていました。入り口から中ほどの「ドレミファ橋」を渡り高麗川の河原でランチ。石コロだらけで、座る場所を探してウロウロ。園内の広場には団子・串焼き・地ビール等の出店や猿回しのステージも。もらった散策マップでは確かに巾着の形になっていますが、近くの山にでも登らないとその全体像が実感できません。それにしてもこの日の開花状況はまさにグッドタイミング！これも昨年の陛下来園と同じ日に企画した、吉越Lの“先見の明”のお蔭かも知れません。高麗駅に着く頃には雨が強まりましたが、遙々と高麗まで遠征した甲斐がありました。

<フォトレポート 小島>



<咲き誇る曼珠沙華に包まれて、色白の人も色移りで顔が赤く染まりました！>



高麗駅で殆どが下車。狭いホーム上は大ラッシュ！



やっと改札口に到着。構内は曼珠沙華一色です。



本日のリーダーは吉越会長。シャツの色も曼珠沙華？



天候が心配なので早めにスタートすることに。



一時間に二本の高麗駅。



最初のポイントはカット。



一気に巾着田を目指すことに。



道端にはこの様な店も。何やら数字が見える・・・



何と巾着が380円。巾着だ！とはシャレか！



キバナコスモスが咲く沿道にも農産物の売店が。



すでにここにも曼珠沙華が咲いていました。



途中にはひっそりと水天の碑が佇む。



天保の天災や水難事故を鎮めるため建立。



秋ですね～大きな栗が実っています。道路標識にも巾着田の名が。



鹿台橋には曼珠沙華のレリーフも。



何か見下ろしていますが・・・魚でもいるの？



いや、土手には黄色の曼珠沙華が咲いていました！



いよいよ巾着田。この遊歩道を歩いてから入口へ。



もうこれを見て十分？ 本命はまだ先ですよ～



鮮やかな朱色と茎の緑が目にも沁みるよう。



曇天なので日陰との差で写りの色合いが異なります。



20人以上なら団体割適用でしたが残念！



さすがに園内の花は色合いが綺麗です。





園内には多くのカメラマンが・・・同じアングル？



ドレミファ橋。名はいいが非常用架橋のような板橋。



石コロだらけの高麗川の河原でランチタイム。もう少し厚いシートを持って来れば良かった・・・尻が痛い！



まるで一輪の赤い曼珠沙華の様なリーダー。



こちらは青系の“四姉妹”。食欲の秋グループ？



＜高麗川の白い河原と曼珠沙華と木々の緑の三色コラボ＞



#### [巾着田曼珠沙華公園]

昭和 40 年代後半に、巾着田の用地を当時の日高町が取得し、藪や竹林、葎に覆われた現地を整地したところ、9 月頃一斉に曼珠沙華が咲き揃い、多くの方の関心と呼ぶようになった。河川の増水等により流れてきた漂流物の中に混じってきた球根が漂着し、根付いたものと考えられている。秋の彼岸には 500 万本の曼珠沙華が、赤い絨毯を敷き詰めたように咲き渡る。

#### [巾着田]

清流高麗川が蛇行した形が「きんちゃく」の形に似ていることから、巾着田と呼ばれるようになった。巾着田近くにそびえる日和田山からは、きんちゃくの形を見渡すことができる。

※ここからは曼珠沙華の写真を並べます。曇天だったので発色が良くないですが行った気分になって下さい！









歩いていたなら見たようなお三方が休憩中でした！



下流にある集合場所の「あいあい橋」。



「あいあい」とは・・・相合 or 愛々？



人数を確認して・・・全員いますか？



揃って出口を目指します。もう曼珠沙華は見飽きた？



やや、一升瓶から何を・・・大丈夫、冷甘酒です！



ここで一人不明？ 幸い合流できた！



最後の買い物？もういいでしょう・・・



※今日は直接巾着田に向かったお蔭で、ランチタイムも雨にあたらずに済みました。ここは十数年前にウォーキングで来たことがあるようですが、曼珠沙華の本数や園内の状況は、果たして当時とは変わっているのか、かつてのレポートが見られないので分かりません。初めての巾着田でしたが、確かに素晴らしい赤の絨毯で、これだけの群生はさすがに見応えがありました。なにせ遠い場所なので、皆さんも朝から時刻表とにらめっこだったのでは？ 私は東横線直通組と一緒にだったので、お蔭でそう長くは感じられませんでした。

吉越しをはじめ、参加の皆さんお疲れ様でした。

←電車の時間が迫っていたので、早めに改札に飛び込みました。

### 【高麗と渡来人について】

皆さんすでにご存じだと思いますが、かつてのここ日高市周辺一帯は高麗郡と呼ばれていました。この高麗郡は「高句麗」という国から日本に渡って来た人たち（「高麗人」と呼ばれる渡来人）によってつくられました。高句麗は、中国の東北部から朝鮮半島にかけて約700年間（紀元前37年頃から668年（天智7年））栄えた大きな国でした。その高句麗は、唐（今の中国）や新羅と戦っていましたが、戦いにやぶれ、668年（天智7年）にほろんでしまいました。国がなくなってしまったため、高句麗から海を渡って日本に来る人たちが多くいて、その人たちを日本では「高麗人」と呼びました。

高麗郡をつくった時のリーダーが「高麗王若光（こまのこきしじゃっこう）」という人で、日高市にはゆかりの建物があります。

若光は、666年（天智5年）高句麗よりのつかい（戦いの援軍をお願いするため）として、日本へやってきましたが、668年（天智7年）高句麗がほろび、帰れなくなってしまいました。703年（大宝3年）、日本の朝廷より「高麗王」の姓を与えられましたが、その時から「高麗王若光」と名のることになりました。約1,200年間続いた高麗郡は、1896年（明治29年）入間郡に組み入れられその名が消えました。その時の高麗郡の範囲は、日高市と鶴ヶ島市の全域、それに飯能市や川越市、狭山市、入間市の一部まで入っていました。  
(日高市HPより抜粋)

### <今日の一言>

とにかく見事な曼珠沙華で、何も言うことはありません！先日の小出川がまだ早すぎたとは言え、規模も内容もここには敵わないでしょう。出来ればこんな花々に包まれて天国に行きたいものですが・・・でも、まだ先が長そうで！

END